

## 和光市総合振興計画審議会第3回会議（安心部会） 会議要旨

開催日：平成24年6月28日（木） 午後1時30分～3時40分

開催場所：和光市役所603会議室（市役所6階）

出席者：花輪宗命部会長代理

3号委員（市内公共的団体の役員）山田智好、佐々木元子、野宗玲子

4号委員（知識経験を有する者）穴戸博

（欠席：4名）

次第：1 開会

2 議事

(1) 重点プランに該当する施策の外部評価

- ・ 施策32 多様な保育サービスの推進
- ・ 施策50 コミュニティづくりの推進

3 閉会

### 1 開会

#### 事務局

ただいまから「和光市総合振興計画審議会第2回会議」を開会します。

なお、本日の会議は、市民参加条例に基づき、公開とし、傍聴を設けています。また、荒木部会長は欠席のため、部会長の指名する者である花輪委員を部会長代理として、本日は会議を進めていきます。

### 2 議事

(1) 重点プランに該当する施策の外部評価

#### 施策32 多様な保育サービスの推進

##### ア 施策評価表に基づく施策概要の説明

担当課が、資料1に基づき説明。

##### イ ヒアリング

#### 花輪部会長代理

それでは、ヒアリングを実施します。施策評価表を見て、疑問に思ったこと、確認したいことを質問してください。時間は15分程度ですが、これから評価をしていくので、積極的に質問をしていただきたいと思います。

#### 佐々木委員

家庭保育室について、現在何施設あるのですか。また、昨年度何施設増えたのでしょうか。

#### 担当課

現在10施設あります。昨年度は、2施設増やしました。

#### 佐々木委員

今後も、1年度に2施設ずつ増やしていこうということでしょうか。

#### 担当課

現在は保育園の施設整備を優先して実施していくという方針で進めていますが、い

ずれにしても0歳、1歳、2歳児については、待機児童が多いのが現状で、家庭保育室については、人数やニーズの動向をみながら検討していきたいと考えております。

#### **佐々木委員**

現在の待機児童は年々人口とともに増えています。現在の施設で、何パーセントくらい入園の要望が満たされているのでしょうか。

#### **担当課**

待機児童を換算するものとして、国に報告を上げている数値があります。昨年度の段階で61名です。前年度の93名から大きく減少となりましたが、丸山台地区に50名定員の施設が開園したことが原因です。ただし、平成24年度に入り増加し、現在70名に上がってしまっています。今後は、2施設の開園予定があり、待機児童の減少につながると見込んでいます。

#### **佐々木委員**

学校給食の滞納問題と同じように、保育料についても滞納者が生じていると聞いています。保育料滞納者と待機児童の関係は、どうなっているのでしょうか。

#### **担当課**

滞納は少なからずあります。保育料を滞納したからという理由で保育園を退園させ、新規に待機児童を入所させるという措置をとってはいません。ただし、滞納に関する問題は非常に重大なこととして考えており、別途対策を講じる必要があると認識しています。

#### **佐々木委員**

時効などもあるのでしょうかから、入園後にその保育料を滞納した人が得をするというようなことはないように、検討してほしいと思います。

#### **花輪部会長代理**

取組内容の待機児童の解消の取組として、弾力的な受入れを行っているかとあります。どのようなことを具体的に行っているのですか。

#### **担当課**

園により定員が決まっていますが、その定員以上に子どもを受け入れているということ。現在120%弱で受け入れています。

#### **花輪部会長代理**

民間の保育園の誘致の目的が2園計画されているようですが、このことである程度待機児童が解消するのではないかと思います。現在、民間事業者の誘致を課題としてあげていますが、誘致がなかなか進まない理由は何でしょうか。どのようなことがポイントであると考えているのですか。

#### **担当課**

待機児童が多い地区に民間保育園を誘致することが最も良いと考えていますが、適切な場所に保育園を建設する場所の確保が難しいことがあげられます。今回、埼玉病院内の敷地を保育園用地として借用して活用し、民間事業者を募集しています。財政的な厳しい面もありますが、一番は土地、敷地の確保であると考えています。

#### **花輪部会長代理**

民間事業者を募集しているということですが、公募に応じる事業者はいるのでしょうか。

### **担当課**

先日、関心を持ち、見学をした事業者がいました。

### **花輪部会長代理**

今後の方向性において、将来の保育制度改革に十分対応することとありますが、どのようなことを想定しているのですか。総合こども園のことでしょうか。

### **担当課**

総合こども園については、国の制度等が定まっていません。今後の国の方向性などを見ながら、対応をしていきたいと思えます。

### **花輪部会長代理**

待機児童を解消するという目標を立てていますが、目標達成はできそうでしょうか。

### **担当課**

説明のとおり、民間保育園の誘致を中心に、待機児童の解消に努めていますが、市内では区画整理等が多く進められています。また、マンション建設も進んでいます。保育園に入園することを希望するというニーズは、今後も増えていく傾向にあると懸念しています。

### **花輪部会長代理**

市の財政状況も厳しい中で、何とかして土地の確保や保育ニーズに対応していきたいということでしょうか。

### **担当課**

そのとおりです。

### **花輪部会長代理**

取組番号 の家庭保育室について、3歳児以上についても年齢層を広げていくことを検討することを課題としてあげています。財源等の目途はあるのですか。

### **担当課**

家庭保育室保育料助成は0歳、1歳、2歳が対象であり、保護者の保育料の負担を軽減するため所得に応じて市は助成しています。家庭保育室のほとんどが2歳までの受入ですが、3歳になっても認可保育園に入れず預ける場所がなくなるというわけには行きませんので、3歳まで助成を拡大する等の対策が必要であると考えています。

### **穴戸委員**

待機児童を減らしていこうという取組については理解ができました。

理研の中には、従業員の子どもを預かるため、定員が36名の企業内託児室があります。現在は、0、1、2歳が対象です。3歳児以上は市、公営の保育園に入園するようにお願いしています。現実には3歳以上の希望もありますが、対応できていません。その中でも今後は70名定員に拡大することとして取組んでいます。利用者に利用料を負担してもらっているが、保育所に係る費用は大きく、利用者に費用全額を負担してもらわなければならないわけにもいかず、企業としても一部大きな負担をしている現状ですが、従業員の希望を受け入れる方向でやっています。公設、市の保育園への受入れも考えていただけることを希望しています。

事務事業として、休日保育管理運営、一時保育管理運営の優先度がCとなっています。必要性、ニーズがないということでしょうか。また、3歳児以上については、入園の希望数は多いのでしょうか。何歳の要望が多いのか、また、その把握や分析など

はやっていますか。

また、埼玉病院の中に民間保育園を誘致するという話もありました。従業員の優先的な受入れ、費用負担や財政措置はどうなっているのでしょうか。

#### **担当課**

休日保育については、みなみ保育園で実施していますが、定員を超えている状況ではありません。よって、拡充などは考えていないため相対的にCの評価をしています。

一時保育については、利用者が減少傾向にあるため、同様にCとしています。

約70名の待機児童の年齢別内訳としては、0歳児21名、1歳児28名、2歳児17名、3歳児4名、4,5歳児0名です。3歳児以上については、ある程度現状の保育園体制でニーズを満たしているのではないかと考えています。

埼玉病院の敷地内に民間保育園を誘致するという件については、埼玉病院から市が土地を借りて、そこに民間保育園を誘致することです。病院で働く従業員の子どもを優先するという趣旨ではありません。あくまでも認可保育園ということで他の保育園と同じです。また、費用負担についても他の民設民営保育園と同じように考えています。

#### **山田委員**

管外保育児童運営の推移はどうなっていますか。どのような内容でしょうか。

#### **担当課**

例えば、和光市に住んでいる方が、勤め先が他市の場合、その勤め先の市で子どもを保育園に入所させたい場合などの状況です。受付は、和光市で行います。和光市から他市区町村へ申請することになります。どこの市でもまずは市民優先であるので、どうしても希望に添えない場合があるのが現状で、待機児童が発生しています。反対に、他市から和光市に希望する場合も同じです。

#### **山田委員**

待機人数はどのくらいでしょうか。どの市への希望が多いのですか。

#### **担当課**

事務事業評価表に示しているとおり、平成21年度22名、22年度17名、23年度9名で、若干減っている状況です。当市の場合は、練馬区、朝霞市へ希望するパターンが多いです。

#### **花輪部会長代理**

事業費として特定財源が多く含まれていますが、この内訳は何ですか。

#### **担当課**

保護者の保育料があります。また、民設民営の保育園については、運営費についての国庫負担金があり、その分が計上されています。

#### **宍戸委員**

和光市の保育料は他市と比較してどうですか。

#### **担当課**

一昨年見直しを行い、平成23年度から料金改定を行っています。見直しに当たっては、当市は比較的保育料が安かったですが、他市の状況等を勘案して実施しました。

#### **担当課**

保育クラブについても、昨年度見直しを実施しました。近隣の朝霞地区3市の状況

を見て決定したところです。これまでは朝霞地区では一番安く、値上げにはなりませんが、県内でみても高くはない水準です。

## ウ 評価シート記入

各委員が評価シートに評価の記入を行った。

## エ 各委員評価の紹介・意見交換

### (ア) 評価の紹介

#### 花輪部会長代理

それでは、各委員より、評価結果を発表していただきたいと思います。

#### 佐々木委員

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は2点で、合計8点です。待機児童が解消できず、自由に選択できないという状況は問題です。

#### 山田委員

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点。「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は3点で、合計9点です。子どもが増えている現状で、平成27年度に待機児童0人を目指すのは難しい気がします。

#### 花輪部会長代理

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は2点で、合計8点です。

#### 宍戸委員

「指標の達成度の妥当性」は3点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は3点で、合計10点です。

#### 事務局

各委員の合計点数は、35点で、評価結果は「妥当ではない部分はあるが、どちらかというとな適正な評価が行われている」となります。

### (イ) 意見交換

#### 花輪部会長代理

では、最後に、評価結果を資料4の「外部評価結果報告(安心部会)」にまとめます。

1の「施策名」は施策32多様な保育サービスの推進です。2の「評価点数(合計)」は、35点で、評価結果は「妥当ではない部分はあるが、適正な評価が行われている。」となりました。

最後に「4部会の意見」です。部会として、この施策について、点数評価以外で何か市に提言すべきことがあればまとめていきたいと思います。

#### 宍戸委員

待機児童の解消について、努力しているということは分かりますが、解消できていないことは事実です。待機児童の解消に努めることを皆さん出しているのではないのでしょうか。この部分は、提言とういことで表したほうがいいと思います。

### 花輪部会長代理

各委員の発言からも、待機児童が解消されていないことは問題であるとの意見が多く出ています。難しいことでもあり、市でもその点は認識しているようですが、部会として、改めて待機児童の解消に引き続き努力する旨を提言していきたいと思えます。

## オ 評価結果のまとめ

### 花輪部会長代理

評価点数は35点で、25～36点の間でしたので、評価結果は「妥当ではない部分はあるが、どちらかというところ適正な評価が行われている」となります。

また、点数評価以外の部会の意見として、「新たに保育園を開設してきたが、待機児童の解消に至っていない現状にある。今後においても新たな保育園の開設を目指すことを踏まえて、待機児童の解消に努めること。」とします。

## 施策50 コミュニティづくりの推進

### ア 施策評価表に基づく施策概要の説明

担当課が、資料1に基づき説明。

### イ ヒアリング

#### 花輪部会長代理

それでは、ヒアリングを実施します。施策表を見て、疑問に思ったこと、確認したいことを質問していただきたいと思えます。

#### 佐々木委員

自治会活動支援員の取組が記載されていますが、具体的にどのような取組をしているのですか。全国的に自治会加入率が減っています。そのような中で、どのような活動を行って効果を上げているのでしょうか。

#### 担当課

自治会連合会のホームページの充実、自治会マップの作成、各自治会活動の支援(避難訓練の支援等)などを行っています。

#### 花輪部会長代理

支援員は何人いるのですか。市で雇用する非常勤職員ですか。

#### 担当課

支援員は2名です。自治会連合会で雇用しています。自治会連合会へは補助金を交付しています。

#### 花輪部会長代理

説明や取組をみていると、全国的にも成功して先進的な取組を進めているという印象を受けます。自治会の組織化、加入率の向上というのは、難しい傾向にあると認識しています。自治会役員等の人材育成はどのようなことについて支援を行っているのですか。

#### 担当課

自治会活性化事業の中で、自治会長に対してアンケート調査を実施しています。その結果をもとに、具体的な問題点や課題に対して、自治会連合会からアドバイスをしたり、市からアドバイス等を行って自治会長のなり手不足に対する支援をしています。

また、新たに自治会長になられた方については、市の取組、助成制度等の説明会を行い、自治会活動をしやすい支援を行っています。

#### **花輪部会長代理**

若年世代の関心の低さについて課題としてあげていますが、若年層の開拓についてはどのように対策を図っていますか。

#### **担当課**

当市は東京都と接しており、特にその都県境付近にあることから、マンション建設が多く行われています。その住民となる方に若年層が多く見られる現状にあります。マンションができた段階で自治会の設立の依頼等を行うことで、若い世代の取り込みを図っています。

#### **花輪部会長代理**

マンションには管理組合があります。管理組合に自治会機能を持たせることは可能なのですか。

#### **担当課**

管理組合については、マンション住民の財産管理が目的です。一方、自治会は住民のコミュニティ形成が目的となり、異なるものです。これまで、管理組合などから問合せなどもあります。この場合には、支援員が管理組合を訪問、説明、自治会設置への理解を得られるよう努めています。

#### **花輪部会長代理**

昨年の東日本大震災の与えた影響が、自治会設立などにおいてプラスの影響を及ぼすこともあるのではないのでしょうか。マンションはコミュニティがないといわれていますが、充実した自治会活動が魅力になり、資産価値を高めることになることもあるのではないのでしょうか。今後も取組を更に進めていってほしいと思います。

#### **穴戸委員**

東日本大震災の影響は、先ほどの意見と同じように、自治会の設置などについてそれなりの影響を与えていると考えています。その点は、進めてほしいです。自治会の加入率は、どのように算出しているのでしょうか。

#### **担当課**

自治会加入の世帯数を、全世帯数で割って算出しています。

#### **穴戸委員**

市内の世帯数が増え、自治会に加入しないと加入率は下がるということですか。

#### **担当課**

そのとおりです。和光市は人口、世帯数が増えているので、何もしないままでは加入率が下がってしまうこととなります。この傾向を何とか防ぎたいということです。

#### **穴戸委員**

そのような中で、支援員の仕事、活動状況はどのようなことでしょうか。若年層に対する取組内容は具体的にどのようなものなのですか。そのことについて、自治会活動支援員はどのような取組を実施しているのですか。また、ふれあい施設整備事業が平成23年度で終了となっています。一方、オンパク事業が新たな事業として取組むことになっています。それぞれの内容を説明してください。

#### **担当課**

支援員の活動については、先ほど3つを説明しましたが、全部で7つの活動があります。残りの4つは、自治会アンケート（意識調査）、自治会長宅訪問・ヒアリング調査、未加入者に対する加入促進活動、自治会未組織地域での結成への支援です。これが主な活動です。

若年者対策としては、人口構成として和光市は若年層が多いということであり、転入時に自治会加入についてのパンフレットを配布し、PRと加入依頼に努めています。

ふれあい施設整備については、主に私道の整備事業に対する補助などでした。従来、県の事業としてはじめていましたが、その後市の事業となったものです。近年要望が少なくなったこと、補助扶助事業の見直しにより、平成23年度で終了しました。

オンパク事業については、和光に住んでいるものの和光がどのようなまちなのか、よくわからないという市民が多いのが現状です。このことから、地域のよさをPRしていきたい、和光をもっと良く知ってもらおうという事業です。実行委員会を設置しており、現在委員は11名です。和光に在住して平日昼間に活動できる方に依頼しており、事業を行っている方、大学生、主婦など様々な方に加わってもらっています。

#### **野宗委員**

自治会の加入率について、実績値よりも目標値が低い。この点はなぜでしょうか。

#### **担当課**

目標値については、計画を策定した平成21年度に目標値を設定したものです。過去10年間の実績を捉え、予測的数値として、何もやらなければどうなるか予測しました。平成23年度には40%を下回るという予測もありました。これは大いに取り組まなければならないということで目標値を設定し、その後、様々な取組を実施してきたことで、その目標値を上回る結果となっているということです。

#### **野宗委員**

事務事業として、コミュニティ活動支援と自治会活動活性化の違いは何ですか。また、今後の方向性、優先度としてコミュニティ活動支援はA、自治会活動活性化はBとなっていますが、この違いは何でしょうか。

#### **担当課**

コミュニティ活動支援については、コミュニティ協議会、自治会連合会、各自治会に支援を行う事業です。一方、自治会活動活性化事業については、自治会活動支援員の取組に係る事業費を計上しているものです。東日本大震災の後、地域のつながりの大切さ、必要性が高まっているということで、コミュニティ活動支援を一番高いAとしました。自治会活動支援員を通じて自治会加入率を上げようと現在取組んでいるところです。

#### **花輪部会長代理**

コミュニティ協議会とは何ですか。自治会連合会との違いは何ですか。

#### **担当課**

コミュニティ協議会は、8団体で構成されている。自治会連合会、社会福祉協議会、文化団体連合会、体育協会、交通安全協会、交通安全母の会、婦人会、くらしの会で構成されています。

#### **花輪部会長代理**



平成24年度からの事業として、友好都市交流が約180万円の事業費が計上されていますが、具体的にはどのようなことを行うものなのでしょうか。

**担当課**

現在、新潟県十日町市、長野県佐久市、栃木県那須烏山市の3市が当市の友好都市です。このうち、十日町市が、東日本大震災以降の風評被害により、観光産業に大きなダメージを受け衰退している状況となりました。本市としては、何かできないかということを考える必要性が高まりました。平成22年度まで、十日町市にあるベルナティオという保養施設の市民利用の補助を行っており、今回ベルナティオの保養施設の補助を再開、また、隣接するサッカー場のクロアチアピッチなどを活用して、和光市から十日町市の施設利用者を増やすなどの支援を行うことになりました。

**花輪部会長代理**

その都度、状況に応じて今後も企画しようということですか。

**担当課**

そのとおりです。

**花輪部会長代理**

先ほどの説明で、ふれあい施設整備事業は終了ということでした。地域の気軽に集まれる場所が不足しているとありますが、既に場所づくりはできたということでしょうか。

**担当課**

ふれあい施設整備事業としては、あくまでも私道の整備に関係する事業のみであった。このニーズがなかったために終了しました。集会所施設の整備などは行っていません。

**花輪部会長代理**

コミュニティ施設、地域センターのようなものはないのでしょうか。

**市民活動推進課**

10施設あります。

**花輪部会長代理**

そこは、集会施設、気軽に集まれる場所ということではないのか。

施設の不足というのは、公共施設というよりも、自治会の集会所ということではないのか。

**担当課**

そのとおりです。

**ウ 評価シート記入**

各委員が評価シートに評価の記入を行った。

**エ 各委員評価の紹介・意見交換**

**(ア) 評価の紹介**

**花輪部会長代理**

それでは、各委員より、評価結果を発表していただきます。

**野宗委員**

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は3点で、合計

9点です。

#### **穴戸委員**

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は2点で、合計8点です。また、その他意見としましては、自治会活動を行政とのパイプ役という考え方ならばこれまでの取組でいいかもしれませんが、地域住民のコミュニティの活性化という視点からみるならば、和光市の特性である若い世代への対策を考えないと加入率はアップしないのではないかと思います。

#### **花輪部会長代理**

「指標の達成度の妥当性」は1点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は1点、「今後の施策の方向性の妥当性」は1点で、合計5点です。なお、「指標の達成度の妥当性」及び「総合評価の妥当性」を1点としましたのは、目標設定について、設定の段階から可能な数値を設定していないかと思われるためです。コミュニティ推進というのは、とらえどころのない施策なのかもしれません。しかし、取組の内容に戦略性や計画の積上げで行っていることが見られません。

#### **山田委員**

「指標の達成度の妥当性」は3点。「取組内容の評価の妥当性」は3点。「総合評価の妥当性」は3点、「今後の施策の方向性の妥当性」は3点で、合計12点です。

#### **佐々木委員**

「指標の達成度の妥当性」は2点、「取組内容の評価の妥当性」は2点、「総合評価の妥当性」は2点、「今後の施策の方向性の妥当性」は2点で、合計8点です。また、その他意見としましては、自治会の加入者をどうするのか。転入時にもっとインパクトのある取組などはできないかと思いました。

#### **事務局**

各委員の合計点数は、42点で、評価結果は「妥当ではない部分はあるが、適正な評価が行われている」となりました。

### **(イ) 意見交換**

#### **花輪部会長代理**

では、最後に、評価結果を資料4の「外部評価結果報告(安心部会)」にまとめます。

1の「施策名」は施策50コミュニティづくりの推進です。2の「評価点数(合計)」は、42点で、評価結果は、「妥当ではない部分はあるが、適正な評価が行われている。」となりました。

最後に「4部会の意見」です。部会として、この施策について、点数評価以外で何か市に提言すべきことがあればまとめていきたいと思います。

先ほどの穴戸委員の外部評価シート③その他の意見についての発言にもありましたが、再度確認したいと思います。どのような趣旨の発言でしたでしょうか。

#### **穴戸委員**

自治会の役割、機能について、行政のパイプ役として事業・助成を推進していま

すが、東日本大震災を経験して、真のコミュニティづくりを目指すべきではないか  
と思います。そのためには、和光市の特徴、若い人をどうするか、どう取組むか、  
参加させるかが重要となり、その取組が必要となるということです。

**花輪部会長代理**

この意見についてはどうでしょうか。これまでの皆さんの発言の趣旨からは、加  
入率が低い、新たな取組が必要ではないかなどの課題が認識されていると感じられ  
ます。よって、この点について、部会の意見としたいと思います。

**穴戸委員**

指標について、市が加入率の増加について取組を実施していることがわかる指標  
として、例えば、自治会新規設置数などを出したほうがわかりやすいのではないで  
しょうか。

**花輪部会長代理**

この意見についてはどうでしょうか。特に異議等がないようですので、同じよう  
に部会の意見として提案していきたいと思います。

**オ 評価結果のまとめ**

**花輪部会長代理**

評価点数は42点で、31～45点の間でしたので、評価結果は「妥当ではな  
い部分はあるが、適正な評価が行われている。」となります。

また、点数評価以外の部会の意見として、「自治会の機能として、従来の行政の  
パイプ役としての役割から、コミュニティづくりに変化しつつある。このことから、  
従来の取組のみならず、和光市の特徴、特色である若い人たち（世代）を対象とし  
た取組に力を入れなければならない。」また「既存の目標値について再度検討する  
こと。また、自治会の加入率を考えるならば、新たな自治会の設置数なども目標値  
として加えること。」とします。

**3 閉会**